

# 富山市PTA連絡協議会はこんな活動をしています!

## 広報実技研修会

令和3年5月30日(日)14時より、八尾コミュニティセンターにて、富山県PTA連合会と共催で令和3年度広報実技研修会を行いました。研修会は、県内のPTA広報担当者に向け、広報紙づくりの意義に対する深い理解と、実践研修を通じた編集技術の向上を目指して開催されました。十分なコロナ対策を取った会場とオンラインとのハイブリッド方式とし、50名以上の会場参加に加え、90名を超える方がオンラインで視聴されました。講師には富山県PTA連合会副会長の山口幸夫氏をお招きし、二部構成で研修を実施しました。第一部では、広報紙とはどのようなものか、作り方の手順、作る上での注意点など、初心者でもわかりやすいよう体験談をおり交ぜながら細かく解説していただきました。第二部では、予め受講者に配布したワークシートをもとに誤字や言葉遣いなどの校正に関し、問題文と校正例を見比べながら、校正をする際に陥りやすいミスや勘違いなどについてご指南いただきました。最後は、掲載写真の許諾の取り方や、記事の内容が広報紙としてふさわしいかどうか等について活発な質疑応答が行われ、参加者はよい広報紙を作り続けることの面白さと大切さを学びました。



## 会長情報交換会

6月20日(日)13時20分より、富山県民会館にて令和3年度会長情報交換会を開催し、各小中学校62校の会長に参加いただきました。第一部では、親学び講座を実施し、GIGAスクール構想の下1人1台のタブレット端末での学習が始まったことから、家庭でのパソコンやスマートフォン、タブレットなどを使用する際のルールについて話し合いました。第二部では、学校規模別に8分科会に分かれ、PTA会長同士がコロナ禍でのさまざまな課題等について、活発な意見交換を行いました。コロナ禍での開催ではありませんでしたが多数参加いただき、諸課題の解決に向けた意識の高さがうかがえました。また、LINEを交換するなど参加者のコミュニケーションが図られ、PTA会長同士の横の繋がりを醸成することができました。



## 第1回ブロック長会議

7月16日(金)19時より、CiC学習室にて第1回ブロック長会議を開催いたしました。ブロック長24名中、ZoomによるWeb参加を含め18名に出席いただきました。各地区担当役員の紹介や、ブロック及びブロック長の役割について、今年度から変更したブロック会議費の助成について説明し、その後、5つの地区に分かれて地区担当役員とブロック長、そしてブロック長同士の交流を深め、情報交換を行いました。今回得られたブロック長の皆さまとのつながりを活かし、今後も各ブロックとの密な連絡と情報共有に努めてまいります。



## 第1回親学びサロン

7月19日(月)19時より富南会館にて、「第1回親学びサロン」を開催しました。親学びサロンでは、「朝の時間をどう過ごしていますか?夏休みを家庭でどう過ごしますか?」をテーマに、富山市内の小・中学校の保護者20名ほどでグループワークを行いました。朝の時間の過ごし方について、必ず朝食は家族で食べるようにしているという方もいれば、朝食を食べる習慣がなく起床してすぐに出かけるという方、仕事で遅く帰宅するためお父さんが登校した後に起床しているというお父さん、早起きして登校前に勉強しているというお父さん等、同じ朝でも家庭によって全く過ごし方が違うことを知るなど情報共有しました。夏休み中の家での過ごし方については、夏休みの課題をお子さんが計画的に進められるようサポートするという方もいれば、中学生のお子さんの場合は自由に任せて干渉しないという方も多かったです。また、ネットやゲーム等の使用について使い方や時間を話し合っているというご意見や、感染症対策を徹底した上で家族で出かけて、子供たちに多くの経験をさせてあげたいというご意見もありました。当日は、富山県教育委員会 生涯学習・文化財室家庭成人教育班長の麦谷理香氏にもグループワークにご参加いただいたり、親学び推進スーパーリーダーの水上雅博氏から「叱ると怒るの違い」についてもお話しいただいたり、親として多くの学びを得ることができました。



## 編集後記

今年こそは普通のPTA活動ができると思っていましたが、昨年と同様に感染に注意を払いながらの取り組みとなっています。そんな中でも各PTAの皆さんは工夫をこらし、子供たちのため活動を進めているのがアンケートを通じて知ることができました。今も感染拡大により制限がある状況が続いていますが、本号が少しでも皆さんの参考となり取り組みが推進されることを願っております。(原)

## 令和3年度広報委員会

- |      |              |
|------|--------------|
| 委員長  | 原 章洋 (西部中)   |
| 副委員長 | 橋本 麻衣 (岩瀬小)  |
| 委員   | 長木 直美 (福沢小)  |
| 委員   | 宮嶋 邦宏 (新保小)  |
| 委員   | 原田友里恵 (大田野小) |
| 委員   | 寺林 麻子 (山室中)  |
| 委員   | 柚原 芳隆 (宮野小)  |
| 委員   | 若林 和信 (音川小)  |
| 委員   | 梅沢 英央 (大沢野小) |
| 委員   | 岩脇 健悟 (榎尾小)  |
| 委員   | 茂 正敏 (保内小)   |
| 委員   | 鷹取 優香 (上条小)  |
| 委員   | 高 瑞季 (和合中)   |
| 委員   | 高 貴裕 (岩瀬中)   |
| 委員   | 内山倫生子 (真羽小)  |
| 委員   | 高見 智子 (長岡小)  |
| 委員   | 追野 裕子 (月岡中)  |
| 委員   | 仲井 紀裕 (上滝小)  |
| 委員   | 村家 幸伸 (堀川小)  |
| 委員   | 吉本 英樹 (堀川小)  |
| 委員   | 松本 規人 (堀川中)  |



## 富山市PTA連絡協議会広報紙 第105号

# Beyond コロナ

～大きな変化を乗り越え、新しいPTA活動へ～

## 特集!

今年度、富山市PTA連絡協議会の会長を務めさせていただいております青山和也と申します。堀川中学校T日会から出向しております。まずは、日頃より富山市PTA連絡協議会の活動に多大なるご理解・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

昨年度は新型コロナウイルス感染症の流行により各小中学校では事業の中止、変更、延期を余儀なくされたところが多く、大変ご苦労されたことと思えます。今年度はワクチン接種が進み、例年に近い形で事業が進められることを期待しております。現状は、かなり厳しいものとなっております。私たちPTAにとっては、今年度も辛抱の年になりそうです。

ここ数年の社会情勢の変化のスピード、大きさは、新型コロナウイルス感染症の流行がこれに拍車をかけ、私たちの想像をはるかに超えています。また、今年の大雪は記憶に新しいと思いますが、今までに経験したことのないような自然災害が日本のどこかで常に発生しています。このような予測困難な社会では、変化に対応する力が求められます。小学校では昨年度、中学校では今年度から新学習指導要領が全面実施されています。新学習指導要領では、この変化に対応する力「生きる力」を「たくむ」という理念を実現することを目指すこととされています。具体的には、子供たちが確かな学力、豊かな人間性、健康・体力をバランスよく身につけられるよう教育内容が強化されています。

私たちは、この新学習指導要領下で子供たちが学校でどのような学びをしているのかをしっかりと理解しなければなりません。そして、学校と協力しながら子供たちをサポートすることが、子供たちの「生きる力」をたくむ原動力となり、また大きな推進力となることは間違いありません。

辛抱の年ではありますが、私たちPTAができることはたくさんあると思います。子供たちの「生きる力」をたくむためのサポートはその一つではないでしょうか。



会長挨拶  
富山市PTA連絡協議会  
会長 青山 和也

## 令和3年度定期総会

令和3年5月8日(土)、富山市大沢野生涯学習センターにて、令和3年度定期総会を開催いたしました。

新型コロナウイルス感染症防止の観点から、会場への参加は各小中学校PTAより1名とし、その他の方へはYouTubeでの配信を行いました。

富山市教育委員会・宮口教育長、富山県PTA連合会・本江会長より激励のお言葉をいただいたあと、令和2年度市PTA連功労賞個人表彰、団体表彰の皆さまに表彰状の贈呈を行いました。また、令和2年度市PTA連表彰者に感謝状をお渡ししました。

総会後半では令和2年度の事業報告と決算報告、会費改定、令和3年度の役員・活動方針・事業計画・予算について議事を進めました。

青山和也新会長からの令和3年度活動方針についてのプレゼンテーションでは、今年度の重点実施項目として富山市への要望書提出を行うこと、そのために4委員会を新設することの説明がありました。また、ホームページを今後も重要な情報共有ツールであると位置付け、時代の変化に合わせて使いやすく充実したホームページへと更新していくために、更新費用の積み立てを実施していく旨の説明がありました。

すべての議事において正式な承認をいただき、令和3年度の新体制がスタートいたしました。役員同力を合わせ、新スローガン「子供たちの未来のために 未来の子供たちのために つながろう・考えよう・行動しよう」を実践してまいります。



## 富山市PTA連絡協議会

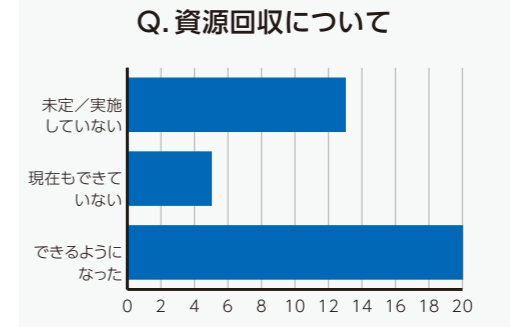
- |         |             |            |           |           |
|---------|-------------|------------|-----------|-----------|
| 新設委員会   | 要望書取りまとめ委員会 | 学校教育研究委員会  | 教育環境研究委員会 | 家庭教育研究委員会 |
| 会長支援委員会 | 懇談会企画運営委員会  | 親学び企画運営委員会 | 広報委員会     | 良書特別委員会   |



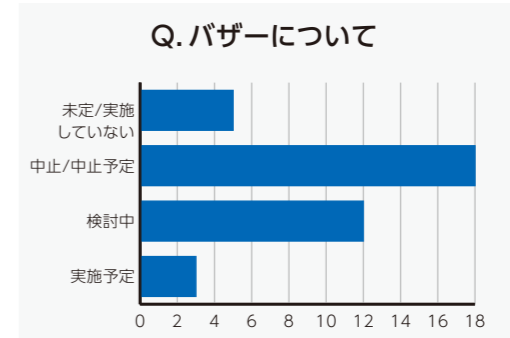


# Beyond コロナ ~ 大きな変化を乗り越え、新しいPTA活動へ ~

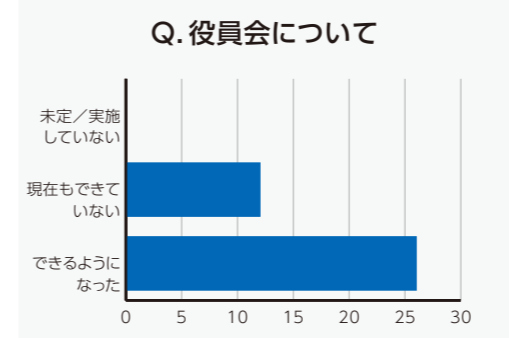
休校明けから現在まで、さまざまな活動が制限される中で、実施できた活動があったか、またコロナ禍におけるPTA活動についてどのように思ったかを富山市内小中学校PTA会長に伺いました。



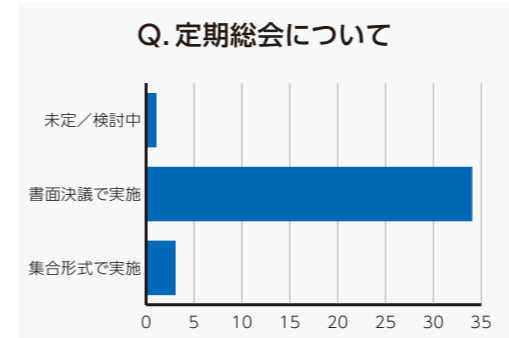
接触感染等の不安のある中で地域貢献事業の開催は賛否があり、PTAとしては強行することができない現状があるように見られた。開催の際は回収物を限定し、回収時間も分散させる、通常の回収に比べPTA役員が手配に時間と手間を割くなど、かなり工夫をしたうえで開催されたことがうかがえた。



集合形式での実施に踏み切れない学校が多く見られた。当日の運営はもちろん、準備においても多くのマンパワーが必要となるため、感染対策を万全にしながらとなるとかなり厳しいガイドラインが必要となるだろう。子供たちが安全に楽しめるようにと、検討中の学校が多い。



消毒、検温、人数を絞っての開催や体育館を会場とするなど、密を避ける努力をして実施されたところが多かった。また、議題をあらかじめ共有し、役員各々が事前に整理しておく、役員会にかかる時間自体を短くなるように工夫されるなど、今後の役員会開催においても大切となるポイントを押さえた回答も見られた。



多くの学校において書面での総会開催・決議を採用されたことがうかがえる。QRコード、Googleフォームを使うオンライン決議方法を採用するなど、紙媒体を使わない・非集合形式での回答方法を採用し、より効率化を図るPTAも見られた。

**Q. 実施できるようになったイベント(活動)はありますか？ また、実施に向けた対策や工夫、実施しての感想を教えてください。**

・総会資料と広報誌は思い切ってWeb化。体育大会は役員から有志を募って動画撮影。卒業式・入学式は少しでも生徒たちに良い思い出を作っておられるように予算を多くかけた。

・密にならないように、日時を決め、自宅の周りのゴミ拾いを行った。

・感染対策を十分に行い、オンラインと集合形式のハイブリッドで家庭教育学級を開催。

・接触が少ない、密にならない等、内容に配慮しつつ、休日の学級活動を実施。一部反対意見があったが、無事に感染等の問題もなく実施できた。

・集まって行うのではなく、それぞれの家庭で制作活動、親子で自転車教室など学年親子活動を開催した。やって良かったという意見をたくさんいただいた。

**Q. コロナ禍でのPTA活動に対する思いや考えをお聞かせください。**

・PTA活動そのものが成人教育の場。親子は親とは何たるかをディスカッションを通じて「気づき」を得る場。コロナ禍を理由に積極的な参加を敬遠される方も多いが、活動の意義を伝える上で意識している。

・「子供たちの為に」と言いますが、そもそもメディアや富山県知事にアプローチをして、子供たちが活動しても問題無い事を広めたいという意味が無いのでは？

・本当に必要なものか、また、形を変えるなど見直しを行う機会としたい。

・コロナだからできないではなく、コロナでもできるを目標に活動している。

・行事の中止が多くなるとPTA行事の継続や組織の弱体化が心配されるので、中止ありきではなく、活動内容を工夫してなるべく多くの行事を実施していきたい。

・前年度の活動の様子や、学校(校長)の方針に大きく左右されていると感じている。執行部はもちろん、一般役員もなかなか決まらないうえ、コロナを理由に、PTA活動のいるいるがうやむやにされ、ネガティブに捉えられていると思うところがある。

## コロナに負けない！ 新たな取り組みを紹介します。

### その一 桜谷小学校お父さんの会の挑戦

桜谷小学校お父さんの会が、5月9日(日)「走り方教室」を開催しました。

コロナ禍における運動不足解消と、翌週予定されている親子運動会に向けて、富山市のダイシンプラント(株)陸上競技部の皆さんに走り方を指導してもらいました。

体育館でのウォーミングアップに始まり、基礎実践トレーニングを行い、最後はグラウンドでリレーを行いました。

リレーでは、子供たちの中に、実業団選手やお父さんたちも混じり、「生懸命ハトンをつなぎました。子供たちは、実業団選手の足の速さに目を輝かせ、笑顔杯グラウンドを駆け回っていました。

## その二 呉羽小学校の挑戦

呉羽小学校では、毎年学年ごとにPTA役員(学級代表)が中心となり、「親子ふれあい活動」を実施しています。例年は、体育館でスポーツ活動を行うことが多かったのですが、昨年度はコロナの為に全学年中止に…。今年度は「最初からできないと決めつけ」ではなく、「どうしたらできるか工夫する姿を子供たちに見せよう」というPTA会長の呼びかけの元、学年ごとに活動を計画しました。

その先陣を切った6月27日(日)に5学年の親子ふれあい活動が開催されました。今回は、密を避けるために屋外での活動として「植物園にて親子でオリエンタリング」と、大勢が集まって活動することに抵抗がある方も参加しやすいように、親子でチャレンジすることを決めて自宅を取り組み、プリントで報告する「おうちで親子チャレンジ」の2種類のコンテンツを用意しました。

今回はコロナ禍での親子ふれあい活動ということと、例年とは様々な違いがありました。一番大きかったのは開催に対して反対の声がなかったことです。しかし、昨年度は行事が次々に中止となり、子供たちは我慢を強いられた1年間でしたので、「どうしたらコロナ禍でもみなさんが安心して参加できるか」を考え、様々な努力をした結果、開催を実現させることができ、参加した子供たちの笑顔をたくさん見ることができました。

【親子でオリエンタリング】

【おうちで親子チャレンジ】

(食事・食分作る)

(ダンボールでスマホ)

## その三 部活動だっぴょん

コロナ禍での部活動について、岩瀬中学校野球部コーチの養浦貴裕さんにお話を伺いました。

「日々の練習を大切にしたい、子供たちに思いやり野球をさせてやりたい。」

監督・コーチはもちろん、練習に参加する子供たちとその保護者も思えば一緒でしたので、コロナウイルス感染症に警戒しつつも、練習の継続を目指して日々取り組んでいます。

毎日の練習では、練習以外の時間は必ずマスクを着用し、練習後の談笑を制限するなどルールを決めて行っています。試合時においては、監督・コーチのマスク着用の徹底はもちろん、アップ時間の制限、試合開始時間の指定、健康チェックシートの提出、試合前の整列の省略、円陣の禁止、ハイタッチの禁止など、厳しいガイドラインがもうけられており、守ることができなければ試合に参加することはできません。また、保護者やサポーターの側にも協力をお願いし、チームの入れ替え時はベンチの消毒や観戦可能な試合時に、観戦者の報告及び当日の体温報告を徹底しています。

野球などチームで行う競技のほとんどが、仲間同士で声をかけ、体に触れて励まし合ったりして盛り上がるのが一体感につながっていくものですが、それが制限されている今、子供たちは大変窮屈な思いをしています。しかしながら厳しいルールを守ることで忍耐強さを身に付けているようにも見受けられます。

今は我慢の時であることを、子供たちもよくわかってきているようです。勝利の喜びを仲間と肩を組んで分かち合い、大人も試合の際には大いに声援を送る、その日が来ることを信じ、これからも感染症対策に取り組みながら皆と野球を楽しみたいと思います。

**「特集取材を通して」**

新型コロナウイルス感染症という新たな脅威が出現し、様々な制約を受けながらも工夫を凝らして活動が続けるPTAの皆さんを知ることができました。また、閉塞感を感じるのではなく、これをチャンスととらえ、より建設的かつシンプルにすることにより、多くの保護者が能動的に参加できるきっかけにしたいと多くのPTA会長が胸中を語ってくれました。

各校のPTA活動は、感染リスクにより、躊躇したり、反対意見により断念せざるを得ないこともありました。そんな中でも子供たちのため、何とか活動できないか悩み、生み出した新しい取り組みも数多く行っています。

中学校の運動部活動においては、感染対策を行いながら、県大会や北信越大会、全国大会も開催することができ、感染対策ルールを守りながら精一杯取り組む子供たちを見ることもできました。

コロナは世の中に閉塞感と制約をもたらしていますが、学校やPTAの現場においては、コロナに負けない変革の兆しが確実に見えています。